

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の状態判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	◎	その他専門店 〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・年末ということもあり、客は正月用品や正月の飲食のための買い出しに来店している。
(四国)	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・県内空港への海外就航便数が増加したことによるインバウンドの増加は目覚ましく、にぎわいや活気をもたらしている。地元客が節約重視の消費であるため、インバウンドには、売上面でも助けられている。ただし、インバウンド1人当たりの消費額は余り大きくなく、購買対象の店舗も限られており、今後の課題も多い状況である。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・11月末のブラックフライデー頃から年末に向けての予約や早めの購入による来客数が増加するとともに、購入単価も上昇した。物価が上昇しているため、やや単価が上昇した商品を購入する傾向があった。
	○	スーパー（店長）	単価の動き	・商品単価、客単価共に上昇している。
	○	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・年末商戦に対しても、商品単価上昇の影響により、売上増加につながり、来客数も前年と比較し増加傾向となった。結果として、年末商戦は、ほぼ好調に推移した。
	○	スーパー（人事）	来客数の動き	・平日は節約し、使うべきときにはしっかり金を使うという動きがある。
	○	コンビニ（総務）	来客数の動き	・来客数の前年比が3か月前と比較し、改善している。
	○	家電量販店（店員）	お客様の様子	・客から予想以上に冬のボーナス支給額が増加したという話を聞くことが増え、ボーナス支給時期を契機に、販売量が増加している。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・台湾、韓国からのインバウンドが好調で、宿泊単価も上昇している。オーバーツーリズムの状況も、今のところ回避できている。
	○	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・10月末から釜山線の定期便が増便されたため、韓国からの旅行者が増加している。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・年末に差し掛かり、帰省客が来店している状況が続き、売上も増加している。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・長年にわたる首長選挙の混乱により、中心市街地の整備が15年遅れ、再生計画の一部が令和27年にしゅん工のめどが立ってきたものの、全体計画の構想は依然として見通しが立っていない。生成AIが使用されるような超スピードの時代に、これでは対応できない。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・年末の忘年会シーズンにもかかわらず、街中の活気がない。特に、夜の通行量が減少している。企業や個人などの年末の過ごし方に変化がある。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・忘年会シーズンやお歳暮の時期だったが、飲食店への納品も数量が増加せず、贈答品も控える客が増えた。
	□	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・物価上昇に伴い、メリハリのついた消費や節約志向がみられるなど、先行き不透明感がある。
	□	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・販売促進強化日に来店する客が増加しており、来客数及び客単価共に前年超えが続いている。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数が前年より僅かに減少し、客単価は僅かに上昇している。物価上昇により、買上点数や来客数が減少しており、結果として売上はほぼ同じ水準である。
	□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・最近の商品価格上昇の影響で、売上はほぼ前年並みを確保できている。しかし、来客数の減少が課題で、本部や個人店がいろいろな施策を実施することで客の取り込みを図っているが、来客数がなかなか前年並みに戻らない。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・原材料価格上昇の天井がみえず、米、肉、小麦粉、のりなどの値上げが回避できない状況である。

	衣料品専門店 (経営者)	販売量の動き	・例年12月は、取引額が非常に大きいため、比較的その値に近い数字となつてはいるものの、気温等の影響を多少受けるとともに、ボーナスも我々の地域は比較的少なかったことから、厳しい状況である。	
	乗用車販売業 (営業担当)	販売量の動き	・長納期化で約半数の新車が販売停止中である。	
	乗用車販売店 (役員)	お客様の様子	・客の購買意欲に大きな変化はない。	
	その他小売 [ショッピング センター] (館 長)	来客数の動き	・引き続き入館数や来客数が堅調に推移しており、7月以降その状況は変わっていない。	
	都市型ホテル (経営者)	単価の動き	・高額単価店舗の利用が減少している。	
	競艇場 (マネー ジャー)	販売量の動き	・大きな変動もなく、遊興にまわす余裕資金は堅調に推移している。	
	美容室 (経営 者)	来客数の動き	・景気は良くないが年末のため、来客数は増加している。	
	設計事務所 (所 長)	単価の動き	・原材料価格と資材価格は相変わらず高止まりしており、人件費が下落する要素もない。	
▲	商店街 (代表 者)	競争相手の様子	・コロナ禍以降、インターネットの売上が大幅に増加している。コロナ禍が終息しても、特にファッション関係で、ますますインターネットでの売上が増加していることに伴い、客が商店街に足を運ばない状況が続いている。	
▲	一般小売店 [文 具店] (経営 者)	来客数の動き	・今年の年末は、前年と比べ売上が大きく減少している。受注量だけでも、前年の約半分である。商品の仕入単価が上昇し、それを販売先に転嫁したいが難しい状況である。	
▲	一般小売店 [書 籍] (営業担 当)	販売量の動き	・8月以降、外商売上の急激な減少が継続している。12月は、前年同月と同程度の売上であったものの、それ以降は落ち込む見込みである。	
▲	百貨店 (マネー ジャー)	販売量の動き	・インバウンド客は好調に推移しているが、国内客は前年割れとなっている。	
▲	スーパー (統括 担当)	販売量の動き	・買上点数の減少といった買い控えの傾向が以前より大きくなっている。	
▲	衣料品専門店 (経営者)	来客数の動き	・衣料品販売では、年末にもかかわらず、来客数が少なすぎであり、来店しても客単価が上昇せず、状況は年々悪くなっている。	
▲	衣料品専門店 (営業責任者)	販売量の動き	・前年と比べ、売上が90%程度にとどまっており、景気が悪くなっている。客からも食品の値上げにより、他の支出を抑えているという話も出ており、購買意欲が低下している。	
▲	家電量販店 (副 店長)	お客様の様子	・販売量の大きな変化はない。目的買いの客が多くなっている。	
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・今年ほうう年で、遍路が逆打ちの年であったことから、秋頃には四国遍路の仕事が相当あった。しかしながら、冬になり、四国遍路の仕事がほぼ終わったため、2～3か月前より売上が減少している。街はそれなりに動きがあるが、四国遍路がメインの仕事であるため、以前より景気は悪くなった。	
×	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・繁盛期に入っても客足は伸びず、売上は例年の8割近くしか到達していない。	
企業 動向 関連 (四国)	◎	繊維工業 (経営 者)	受注量や販売量の動き	・地域格差はあるものの、特に都市部や観光地での受注が旺盛である。年末年始の需要に対して、一括して仕入れる傾向がみられ、春先にかけての需要に対する期待感がうかがえる。
	◎	通信業 (企画・ 売上管理)	受注量や販売量の動き	・現状、2024年は12月が最も受注が多かった。
	○	食料品製造業 (商品統括)	受注価格や販売 価格の動き	・価格上昇による利益確保が着実に継続されている。売上は減少しても、利益確保を確実に実行する姿勢を食品業界として強く打ち出している。
	○	電気機械器具製 造業 (経営者)	受注価格や販売 価格の動き	・政権が代わり、いろいろな形で景気回復のための政策が採られており、それを信じて行動できるといったマインドが向上したことに伴い、景気は良くなっている。

	○	輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・インバウンドを含めた客が増加した。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、青果物の多くが数量減少するなか、高単価で推移している。ただし、数量が少ないことによる高単価であり、数量減少を単価上昇でカバーできている品目は限られる。また、小売価格や納品価格は、卸売単価に通常の間の手数料を転嫁した価格になっておらず、いずれかの部門が利益を抑制又は利益なしでの流通を余儀なくされている。このような状況が長く続いており、生産者から消費者まで得をしているところがない状況である。
	□	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が大きく落ちており、今後もこの傾向は継続する。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・前月同様に造船関連の受注量や販売量は安定しているが、産業機械関連は引き続き停滞している。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・日本では、大規模工事が実施、計画されている。一方で、慢性的なオペレーター不足や労働時間上限規制の影響見極めの動きもあり、需要は減少している。海外では、アジア、オセアニア、アフリカで需要が減少したものの、全体としては増加した。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・雑小工事を除き、今月も受注はゼロであった。
	□	通信会社（総務担当）	それ以外	・ボランティアで年末にフードバンクへ寄附を行っているが、持参する人数は前回とほぼ変わらないものの、品数、量がやや減少している。
	□	金融業（副支店長）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較して、受注等の販売量等に大きな変化がない。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・収益の大きな増減はない。
	▲	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・景気の指標となるプラスチック袋といった既製品の動きが悪い。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (四国)	○	職業安定所（求人開発）	求人数の動き	・月間有効求人数の前年同月比について、3か月前よりもマイナス幅が減少している。
	□	人材派遣会社（総務部長）	求職者数の動き	・求職者数が依然として増加していない。
	□	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・各企業の求人に対して、採用が成功している割合が変わらない状況が続いている。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・求人に関して大きな変化がみられない。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・広告の新規出稿に力を入れているが、新規出稿数が伸びない。
	×	—	—	—
		×	—	—